

大阪北摂霊園で自然葬区画整備へ

08月13日 12時19分



大阪・豊能町などにまたがる府内最大規模の霊園では、墓を維持することが困難となっている遺族のため、来年度、樹木を墓標に遺骨を埋葬する「自然葬」を行える区画を新たに整備することを決めました。

大阪府北部の豊能町、箕面市、茨木市にまたがる「大阪北摂霊園」は、近接する千里ニュータウンの開発に伴って、昭和48年に大阪府が整備し、およそ2万5000の区画がある府内で最大規模の霊園です。

近年は少子高齢化の影響で、墓を維持することが困難となっている遺族も増えていることから、霊園を運営する「大阪府タウン管理財団」は、来年度、樹木を墓標にして遺骨を埋葬する「自然葬」を行える区画を、新たに整備することを決めました。

管理財団では、墓石などの管理が不要なほか、少ない費用で済むことから、遺族の負担の軽減につながるとして、大規模な公共の霊園で「自然葬」を行うのは、関西では初めてだということです。

管理財団は、来年度、およそ100人を埋葬できるよう整備を進める方針で、需要に応じて、区画を増やすことも検討することとしています。